



白虎隊の會長崎支部だより



第 2 号

平成25年4月13日 発行:長崎支部

日下義雄の顕彰看板を設置

去る1月26日(土)、長崎支部は第8代長崎県令(初代長崎県知事)の日下義雄を顕彰する看板を設置しました。除幕式には白虎隊の会本部より、木下健副会長と飯沼一元事務局長に参加していただきました。また、日下義雄の父、石田龍玄の子供の子孫に当たられる上野嘉代子さんと石田久美子さんのお二人の姉妹もはるばる福島県会津坂下町からご出席くださり、支部会員一同感謝・感激いたしました次第です。

また、除幕式には長崎市の文化観光部長やNHK長崎放送局長も来賓としてご出席いただきました。そして、日下義雄が建設を推進した下水溝の一つで、顕彰看板の下を流れるししとき川周辺自治会の会長さんや役員の方々もご出席くださり、自治会が日頃ししとき川の溝掃除を行っていることを銀屋町自治会長さんが明かしてくださいました。



飯沼事務局長のご挨拶



吉村銀屋町自治会長さんのご挨拶



水野東古川町自治会長さんのご挨拶



地元長崎市の池田文化観光部長よりご挨拶

私たち長崎支部としても、今後は自治会の清掃活動に参加させていただき、明治の日下知事時代の遺構として残るこの下水溝の保存に寄与していきたいと考えています。



日下知事によって建設された下水溝の一つ、しとき川自治会が清掃する以前は汚泥が堆積していたそうです。



日下義雄の兄弟の子孫に当たられる石田久美子さん(左)は、子供の頃、祖母から日下義雄のことを聞かされていたそうで、すごいことをしたんだな、うれしく思いますとおっしゃっていました。



出席者で記念撮影



H25.1.27付 毎日新聞

説明版の内容

長崎の上下水道整備に貢献した旧会津藩士

日下義雄（くさか よしお）一八五一〜一九二三



長崎歴史文化博物館蔵

第八代県令・名譽変更で初代県知事・明治十九年（一九二二年）
実弟は、飯盛山で自刃した白虎隊士の石田和助である

日下義雄は会津藩医・石田龍玄の長男の五助として生まれる。

戊辰戦争では会津藩士として鳥羽伏見の戦いに参戦して負傷。実弟・和助は白虎隊士中二番隊士として会津戦争に加わり飯盛山で自刃した。五助は後、箱館戦争に加わり捕虜となる。赦免後は、英語を学ぶために長崎を訪れ、会津藩御用通商人（七百円）長崎問屋の足立十郎を訪ねるが、四浦の小松政治を媒介して、小松の紹介で井上鶴の養生となり日下鶴雄と改名、大森英語学校へ入り、井上に認められ岩倉使節団に同行し英国に留学。その後はヨーロッパを遊覧、ロンドンで経済学を学ぶ。帰国後は官僚となり行政と登記法の専門家として統計課長などを歴任。

明治十九年、第八代県令として赴任。名譽変更で初代長崎県知事となる。前任早々手がけたがコレラ等の感染症対策としての下水道工事、汚水が上水道に混入しないように、板石・瓦材で三面張りとし、天川・しつと川のことで固める改築工事を命じ、しつと川をはじめ六本の下水道管を敷設した。これが、通称「三角溝」である。また、上水用の本河内水源地の創設にも尽力した。

さらに、コレラ隔離のための通病院や検疫所をつくり、土葬を禁止し火葬場をつくるなど長崎の公衆衛生に多大なる貢献をした。また、中島川上流の中川堰に数千本の桜を植樹し中川カナルスと呼ばれる名勝地にした。

日下は水源地完成前に非難となり、後事を同郷の初代長崎市長・北原権三に託して長崎を去った。明治二十五年からは福島県知事となり郡山―会津間を走る会津鉄道建設の敷設などを推進した。後、衆議院議員、墓所は桜で有名な谷中墓園（東京）にある。

平成二十五年一月二十六日

白虎隊の名長崎実弟

説明板設置についての新聞記事

2013年（平成25年）2月6日 水曜日

明治中期の県令 日下義雄 業績再評価の動き

1月30日、長崎市古町町のしつと川、堰に日下の業績を記した説明板が立つ。除幕式は、日下の実弟・石田久美子（左）と田代文子（右）らが行った。説明板は、上野嘉代子（左）と石田久美子（右）らが行った。説明板は、上野嘉代子（左）と石田久美子（右）らが行った。

H25.2.6付長崎新聞

除幕式に福島県会津板下町から駆けつけてくださった上野嘉代子さんは、「みなさんに下水道を大切にしてもらい、涙が出そう」と語ってくださいました。

また、石田久美子さんは「日下義雄は親が医者だったから、公衆衛生に尽力したのだと思います」と感想を述べられました。

信念貫き上下水道整備



立役者として、本当りの業績を待たずして、大區運動を断つ。知事公舎を押し寄せる。知事をかたし、日下は去った。日下は去った。日下は去った。

日下は長崎に、石田久美子（左）と田代文子（右）らが行った。説明板は、上野嘉代子（左）と石田久美子（右）らが行った。



H25.1.28付朝日新聞

コレラ患者が激減「長崎救った」会津魂

日下は長崎に、石田久美子（左）と田代文子（右）らが行った。説明板は、上野嘉代子（左）と石田久美子（右）らが行った。

日下義雄説明板設置記念講演会を開催

1月26日(土)午後2時から長崎歴史文化博物館で日下義雄の説明板設置を記念して講演会を開催しました。会場には120名の市民が訪れ、熱心に聞いてくださいました。

講演はまず、白虎隊の会事務局長の飯沼一元氏が「白虎隊が残したもの」と題し、白虎隊士は何故自刃したのか、唯一の生き残り隊士の直系子孫として残された手記をもとに、その真相を明らかにする講演を行いました。

次に白虎隊の会副会長で山川家の三男・健次郎の曾孫 木下健氏が「私の聞いている会津と山川家」と題して、NHK大河ドラマ「八重の桜」に登場する山川大蔵など山川家の人々のことを興味深く語ってくださいました。最後に白虎隊の会長崎支部・工藤新一支部長が「長崎に貢献した白虎隊士の兄・日下義雄」と題して、長崎の上下水道の整備に尽力した日下の業績を詳しく解説しました。下関支部より、除幕式・講演会に際しまして祝電を頂戴しまして、ありがとうございました。



会津のビデオも上映して下さった飯沼事務局長の講演



講演会打ち上げの二次会で木下副会長と懇談する支部会員